

---

# 徴税吏員は挨拶上手

投稿: 充 さま

徴税吏員は挨拶上手、元気、やる気、本気でなければいけない。

徴収の研修を頼まれて、話をする機会がある。

私の出だしは、ただ今ご紹介いただきました…ではない。

朝なら「おはようございます」、午後なら「こんにちは」である。

ぐると見回しながら、大きな声で挨拶をする。

この後すぐ、私はぐらっと前のめりによるめいてしまう。

どこへ行っても、押しなべて、返しの挨拶が、「…っす↓」とか「ん…ちわ…↓」と暗闇の中の牛のあいさつだからである。

やり直しにもう一発大声を出して、気合を入れて研修に入るのが常だ。

お役人は、どこへ行っても挨拶が下手だ。

どこかの県の体育系の知事が、挨拶運動を始めたが、いつの間にか消滅してしまった。何もお役人だけが挨拶がへたでもないようだ。

今の日本で、挨拶が一番上手なのは、幼稚園児なのである。元気のいい挨拶ができる。大声の反響に、笑顔でのけぞってしまうほどである。

挨拶が上手でなければ滞納者の懐に入れられないし、滞納の催促で、ただでさえ気まずいのに、話が暗いほうへのめり込んでいってお互いに嫌になってしまう。

とっかかりがぎすぎすすれば、お互いの気持ちもささくれだって、払え、払えないの押し問答になってしまう。

私は、徴税吏員は挨拶上手出なければいけないと思うので、研修の第一声でそのことを確かめる意味もあって、大きな声で挨拶をすることになっている。

大きな声は、元気な証拠でもある。人間は声が出なくなったらお終いだ、徴税吏員もぼろぼろやっているようでは、滞納者に呑みこまれてしまう。ときには、何をいってるのか、しっかりしろなどと言われてしまう情けないことにもなりかねない。こちらの土俵で相撲がとれなくなってしまうということだ。

また、元気はやる気に通じる。やる気は、相手にこちらの意気込み伝え、ソフトで確かな力で滞納者をひるませる。いいがかりなどつまらないことに巻き込まれる隙も与えない。

滞納者を呑み込んでしまうには、本気でないといけない。もちろん税を徴収しても徴税吏員のふところにはいるわけではない。自分のものにならないからといって取れたって取れなかったって、給料さえきちんともらえれば関係ないなどということは思ってもいけない。滞納者にこちらの腹を探られて、勝手な都合を並び立てられて、納税を先送りにされてしまう。自分のお金を人に貸した場合を考えて貰いたい。約束の日に戻してもらえなければ、どうするかを考えてもらいたい。ひとごとのような催促では徴収の実はあがらない。多くの納期内納税者から付託された徴税吏員の職責を重く受け止め、資力のある滞納者に対しては、毅然として納税義務の履行をなさしめるのが徴税吏員の正しいありかたである。